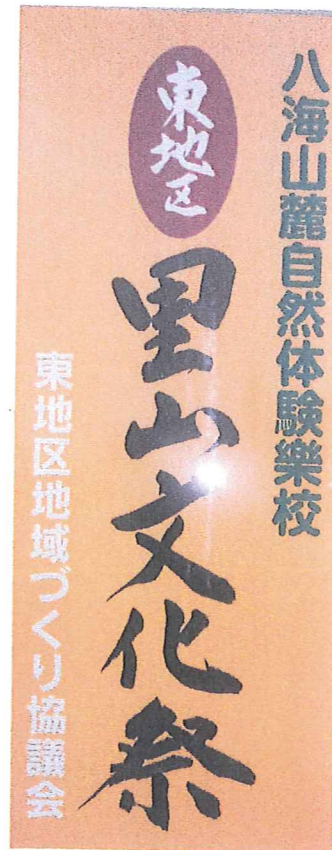


水無みよう

第14号

東地区地域づくり協議会々報
発行 平成26年12月1日
発行責任者 佐藤成孝
茗荷沢268番地1 (東開発センター)
電話 025-779-3312

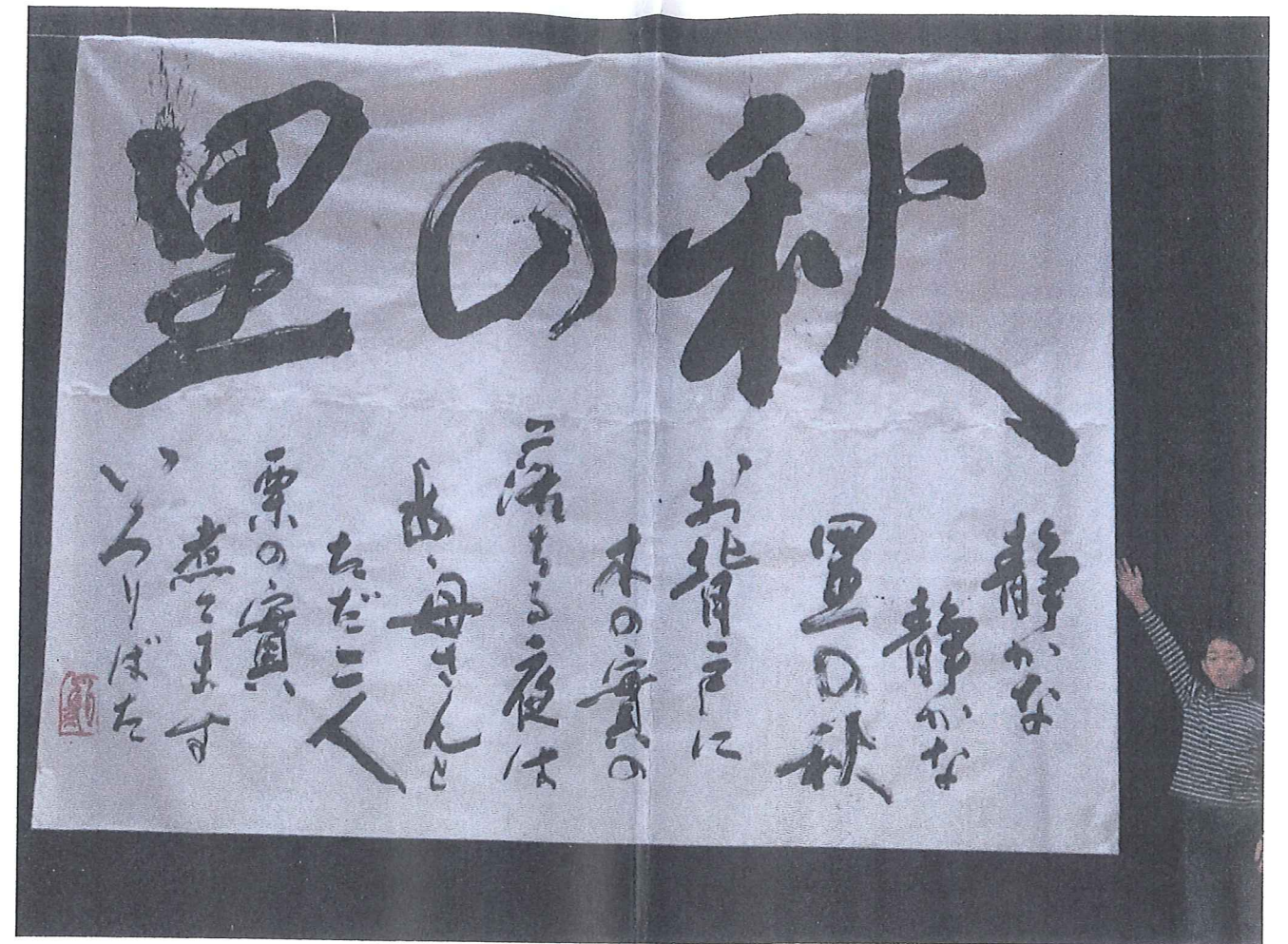


去りゆく秋を偲んで 身近な人の作品鑑賞

赤石・三用両小学生や東の絵画・書道・写真愛好家らが出品した「里山文化祭」が11月8日から10日まで八海山麓体育館で開かれた。盆栽・手鞠・絵手紙・パッチワーク・押し花・陶芸作品など身近な人の作品を鑑賞した。茗荷沢新田出身で赤石小学校の校歌作詞者駒形南子(本名=雄一たけし=1889-1967)の遺作も展示された。

当協議会主催。八海山麓自然体験楽校事業の一環として実行委員会(小田島正明委員長)が取り組んだ。来場者は約400人。

赤石小学校体育館ステージに掲げられた「里の秋」=齊木道夫赤石小学校長撮影



会場が一体の 空気感味わう

初めての書道パフォーマンス

富所白象さん(寄稿)



δ 和田芳山さんが計画

第一回里山文化祭の^し祈念イベントとして「書道パフォーマンス」が企画されました。和田芳山さんを中心に計画が進められ、八海太鼓、尺八、琴の演奏と書のコラボが実現することとなりました。

子供達からも希望者を募り、三用小は「ことわざ」を、赤石小は「校歌」をそれぞれ5~6人のメンバーで書くこととなりました。子供達にとってはまさに初めての体験ですが、私も3m×4mの紙に書くというパフォーマンスは初めての経験です。私は尺八と琴に合わせて、とのお話でしたので、まっ先に思いついたのが「里の秋」でした。私は大好きな童謡ですが、今の子供達は知りません。そういった事もあり、年配者には懐かしく、子供達には新鮮なこの曲をリクエストしました。お忙しい中でしたが、

演奏の皆さんとの合同練習も行い万全の準備で本番を迎える事が出来ました。

当日は大勢のお客さんからお集まり頂き、良い緊張感の中、パフォーマンスが始まりました。まずは子供達。踊ったり、カラー墨液を使いカラフルな作品を仕上げたり、元気よく頑張ってくれました。

δ 尺八、琴に合わせ

そして私の番。演奏に合わせて「里の秋」と大きく横書きし、その下に「静かな 静かな、、、」と歌詞を揮毫。体全体を使って書く爽快感と会場が一体となった空気感を味わいながらゆったりと心地よいリズムに乗って筆を進めることが出来ました。

最後には和田芳山さんの4m×8mの巨大紙に「平和」の二文字。和田さんにとってもこれほどの大作は初めての挑戦との事で

したが、羽織袴でほうきほどもある大筆を手に、走りながら書かれる姿は圧巻でした。

δ 誰もが出品できる文化祭

初めてづくしの今回のパフォーマンスでしたが、ご覧になられた方からは、実際に書く姿を見られてよかった、息を呑んで見守ったよ、といった言葉を頂いたり、子供達の堂々とした姿に驚いたなど、おおむね好評だったのではないのでしょうか。私もこのような機会を頂けたことにとても感謝しております。来年はどういった企画になるかは分かりませんが、老若男女が集い、共に楽しめるような催しを続けられればと願っております。

地域の中には、まだまだいろんな趣味をお持ちの方が多くいらっしゃると思います。里山文化祭は誰もが出品できる作品展です。今年出品されなかった方も、是非来年は出品をして頂き、里山文化祭を、東地区を共に盛り上げていただきたいと思います。

富所白象(はくしょう)本名希代子。京都市生まれ。7歳で習字を始め大学で西野象山先生と出会い本格的に書の勉強を始める。結婚を機に桐沢へ。
毎日書道会々員
創玄書道会 審査会員
南魚展 無鑑査
白象書道教室 主宰
里山文化祭 実行委員